

MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2026.3.14  
第 1193 回放送分『耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患』2 回目  
ゲスト：山下勝ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患」をテーマにお送りいたします。

お話は、鹿児島県医師会 山下勝（やました まさる）ドクターです。山下さん、よろしくお願いいいたします。

山下勝Dr.

よろしくお願いいいたします。

二見いすず

今日は何についてお話しいただけますか。

山下勝Dr.

今日は、下咽頭がんと喉頭がんについてお話しいたします。

二見いすず

わかりました。ではまず下咽頭がんからお願いします。

山下勝Dr.

はい。下咽頭がんになる原因として大きいのが飲酒です。

男女比でいうと、男性の方がかなり多いです。

初期はほぼ無症状のため、人間ドックなどで胃カメラの検査をしたときに見つかったというケースが多いです。

二見いすず

最初はほとんど無症状なので、何かしらの症状があるときはすでに進行しているということですよね？

山下勝Dr.

そうですね。声がれや飲み込む際にのどのひっかかり感などの症状があり、進行すると嚥下障害や呼吸困難も起こります。

ただ先ほどお伝えしたとおり、胃カメラで発見されることが多いので、胃カメラの検査を定期的に受けていたら早期発見につながります。

二見いすず

ところで下咽頭というのは、喉のどのあたりでしょうか？

山下勝Dr.

食道の入口にあたる部位です。その前に声を出す喉頭があり、手術で大きな切除が必要な場合には喉頭ごと摘出するため、声を失うこともあります。

二見いすず

声を失ってしまうと、日常生活もかなり不自由になってしまいますね。胃カメラの検査を定期的にする大切さが改めてよく分かります。続いて喉頭がんについてもお聞きしたいのですが、喉頭がんも主に飲酒が原因になるのでしょうか？

山下勝Dr.

喉頭がんは飲酒に加えて喫煙が大きく影響します。こちらでも圧倒的に男性に多いがんです。初期症状としては声がれで気づく方が多いです。喉を使いすぎたり風邪を引いたりしても声がれすることはありますが、1ヶ月以上続くような場合なら、早めに耳鼻咽喉科を受診するようにしてください。

二見いすず

治療についても教えてください。

山下勝Dr.

以前は放射線治療を中心とする治療のみだったのですが、現在は早期の場合ならば、喉頭を温存することを目指した口からの手術ができることもあります。進行がんの場合は、患者さんの年齢や状態によって喉頭を温存する治療か、摘出する治療かを選択し、温存する場合は主に抗癌剤を併用する放射線治療を行います。

二見いすず

分かりました。喉頭がんの場合だと、声がれという初期症状があるので気づいたらぜひ早めに受診するようにしたいですね。今月は「耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患」をテーマにお送りしています。お話は鹿児島県医師会の山下勝ドクターでした。山下さん、ありがとうございました。

山下勝Dr.

ありがとうございました。